

# 【（一財）東京マラソン財団】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

## 活用戦略で定めた「団体の将来像」

東京マラソンのブランド力を生かし、都施策と連携しながら東京の魅力を発信する団体

### 重要課題 ①

高齢化社会や東京2020大会以降のスポーツを取り巻く状況を見据え、ランニングスポーツを通じた健康増進や運動習慣の定着に向けた事業展開をどのように進めていくか

### 検討の状況や今後の方向性

- マラソン財団では、東京マラソンの運営のほかに、オフィシャルイベントや東京マラソン財団公式クラブ「ONE TOKYO」の運営、ランニング・ウォーキングコース整備を通して、ランニングスポーツを通じた健康増進や運動習慣の定着に取り組んでいる。
- 今後は、東京マラソンのブランド力を生かし、レガシー事業としての新規ランニングイベントの実施や、ランナーサポート施設「ジョグポート有明」等における女性ランナー向けサービスの充実などについて検討を進め、広くランニングの機会を提供していく。
- また、昭和記念公園に設置した、走行距離や時間、消費カロリーを記録できる計測機器を都立公園等へ拡大させるなど、幅広い年齢層がランニング・ウォーキングを楽しみながら行うことができる環境づくりに取り組んでいく。

## 【（一財）東京マラソン財団】の課題と今後の方向性

<b>重要課題</b> ②	<b>2020年以降の継続した収益の確保</b>
<b>検討の状況や今後の方向性</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 既存の協賛企業との協賛継続及び増額交渉に加え、新規パートナーの獲得にも努めていく。また、現在の財団事業に対しての包括的な協賛契約から東京マラソン大会への協賛と関連事業（チャリティ、ファミリーラン・フレンドシップラン、VOLUNTAINER、RUN asONE等）に対する協賛に区分し、事業ごとに特化したパートナーの新規開拓を進めることで、協賛企業及び協賛金額の増を図っていく。</li><li>○ 改定された参加料に基づく収入の確保と競技運営経費の削減により、協賛金に過度に依存しない健全な収支構造の均衡に向けた運営に努めていく。</li><li>○ そのほか、他団体のスポーツボランティア等に向けた研修など、引き続き東京都や全国のボランティア団体等と連携しながら業務を受託していく。</li></ul>